

有人航空機・無人航空機の 運航調和にむけた意見交換会

低高度運航 ヘリコプター各作業の紹介

朝日航洋株式会社
エアモビリティ事業部 沓澤 潤



会社概要

AERO ASAHI CORPORATION

Air-Mobility Div.

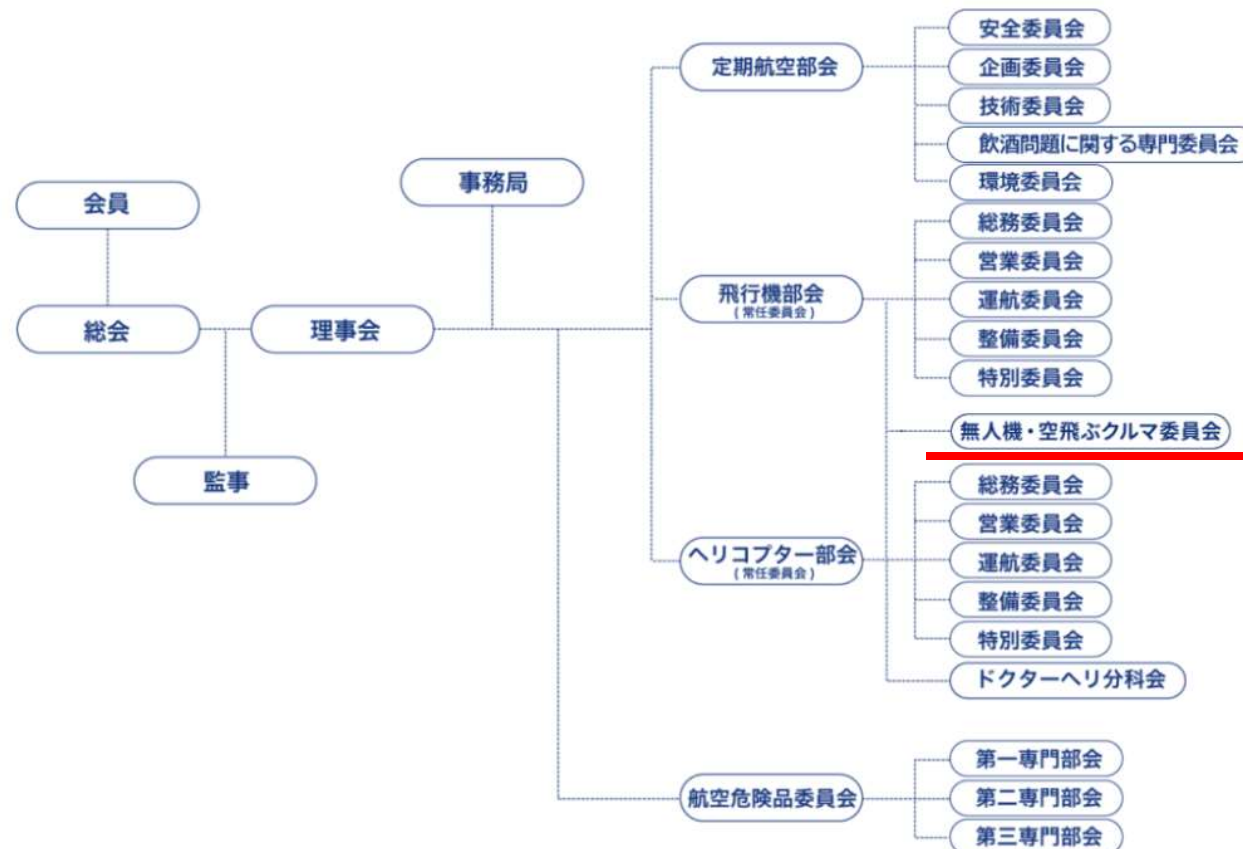


全航連：無人機・空飛ぶクルマ委員会

AERO ASAHI CORPORATION

Air-Mobility Div.

全日本航空事業連合会（全航連） 組織図



2022年12月発足

ジェネラルアビエーション

AERO ASAHI CORPORATION

Air-Mobility Div.



物資輸送



海洋開発支援



送電線巡視



報道/航空写真撮影



ドクターヘリ



旅客輸送

ジェネラルアビエーション

AERO ASAHI CORPORATION

Air-Mobility Div.

物資輸送



ジェネラルアビエーション

AERO ASAHI CORPORATION

Air-Mobility Div.

海洋開発支援(オフショア)



- 作業員・研究員の人員輸送
- 物資(食料・医療など)



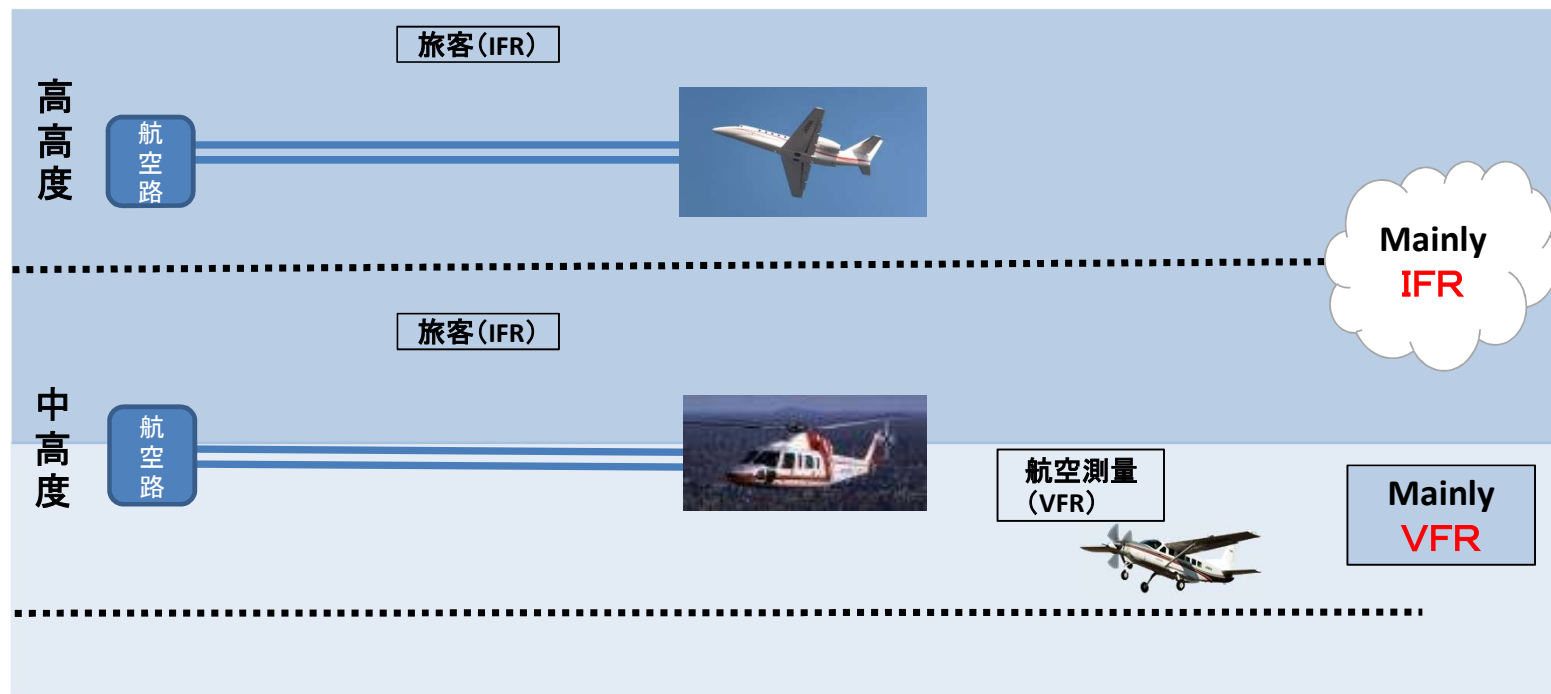
物資輸送



各高度イメージ

AERO ASAHI CORPORATION

Air-Mobility Div.



ヘリコプターは高い高度を飛行することが苦手な航空機
①ヘリコプターは与圧キャビンがありません。

②日本上空は偏西風が強い。

③凍結防止装置がありません。

④空気密度が低いと速度性能が低下してしまいます。



低高度航空路を求めていきたい

Instrument Flight Rules
『計器飛行方式』

IFR

VFR

Visual Flight Rules
『有視界飛行方式』

管制を受けて他の航空機との間隔が調整される

他機との間隔は目視の見張りで確認する

飛行経路(ルート)が定まっており、
地上物件との間隔が確保されている

地上物件との距離は、目視により確保し飛行する

離着陸の最低気象条件を満たし飛行する

有視界気象状態を保ち飛行する
1.5～5km※視程を確保する
雲から離れて飛行する必要有
雲と機体の相対位置で雲～600m※離れる

低高度の航空路が極めて少なく、設定されているものは消防・防災用である。

利用者の利便の増進されるところに低高度ルートを設定して欲しい。



ヘリコプターの社会的割合

AERO ASAHI CORPORATION

Air-Mobility Div.

- アメリカ

- 小型飛行機: 170,000機
- ヘリコプター: 4,500機

アメリカのヘリコプター割合 3%

- 日本

- 小型飛行機: 1,200機
(210機: 全航連)
- ヘリコプター: 1,000機

(350機: 全航連) + (50機: その他) = 400機: 事業関連の機体

日本のヘリコプター割合 18%

能登半島地震 関連の運航について

令和6年1月1日～2月8日

以下のようなミッションのヘリコプター運航を行いました。

■電力会社の運航(鉄塔・送電線・設備点検)	72時間
■作業員輸送	33時間
■調査飛行(災害等調査)	30時間
■物資輸送	8時間
■写真や映像の撮影	2時間
■報道関連	

145時間

※報道は含めず

報道機体の制限や燃料を給油する場所が限られたため、その飛行目的と天候や給油地を見極め運航可否の判断を行い、北陸3県を主に上記以外の県外の要望・要請にも応じ、ミッションを行いました。